

日本手話—書きことばを持たない少数言語の近代

「一橋大学審査博士学位論文」

2012年3月23日

一橋大学大学院言語社会研究科

博士課程

学籍番号 LD071004

岡 典栄

目次

序章 日本手話とはどんな言語か	1
0. 論文の目的	1
0.0.1 先行研究の検討	2
0.0.2 本論文の構成	3
0.1 日本手話の話者（特定の地域を持たない少数言語）	5
0.1.1 日本手話の母語話者	7
0.1.2 日本手話の非母語話者	12
第1章 日本手話の言語的特徴	16
1.1 視覚と体の動きを使った言語	16
1.2 書きことばを持たない言語	19
第2章 日本手話の書きことばを持たないことは何を意味するのか	36
2.1 威信の欠如と地位の不安定性	36
2.1.1 書記文学の不在	38
2.1.2 学校教育	38
2.1.3 印刷物の普及	39
2.1.4 規範化	39
2.1.5 まとめ	41
2.2 言語計画論の枠組みにおける手話の位置付け	42
2.2.1 言語の選択	43
2.2.2 成文化（標準化の過程）	44
2.2.2.1 成文化	44
2.2.2.2 文法獲得	45
2.2.2.3 辞書作成	46
2.2.3 実現（教育的普及）	46
2.2.4 精密化（機能的発展）	50
第3章 日本手話と日本語の二言語状態	60
3.1 ろう者のバイリンガリズム	60
3.2 日本のろう社会はダイグロシア状態にあるか	64
3.2 手話のダイグロシアに関する先行研究	65
3.2.1 日本以外での研究	65

3.2.2	日本における研究	67
3.2.3	日本の状況の検証	69
3.2.3.1	機能 (Function)	70
3.2.3.2	威信 (Prestige)	72
3.2.3.3.	文学的伝統 (Literary heritage)	73
3.2.3.4	習得 (Acquisition)	73
3.2.3.5	標準化 (Standardization)	73
3.2.3.6	安定性 (Stability)	74
3.2.3.7.	文法 (Grammar)	75
3.2.3.8	語彙 (Lexicon)	75
3.2.3.9	音韻 (Phonology)	75
3.3	まとめ	75
第 4 章	日本手話はどこへ行くのか	81
4.1	日本手話は危機言語化しているか	81
4.2	日本手話の復興	88
4.3	日本手話は誰のものかーことばの「所有権」	91
4.4	「話しことば」と「書きことば」	96
4.5	多言語社会での日本手話ー終章	101
参考文献	107
資料	112

表一覧

表 0-1	障害の程度別にみた聴覚障害者のコミュニケーション手段の状況（2006 年（平成 18 年）身体障害児・者実態調査結果 表 19）	8
表 0-2	障害の程度別にみた手話修得の状況表（III-4）（1996 年（平成 8 年）度調査結果）	8
表 0-3	年齢階級別にみた手話修得の状況表（III-5）（（1996 年）平成 8 年度調査結果）	9
表 0-4	聴覚障害者のコミュニケーション手段の利用状況（平成 13 年（2001 年）身体障害児・者実態調査結果 表 III-3）	10
表 0-5	聴覚障害児数とろう学校在籍児数の推移	11
表 1-1	手話の文字に関するアンケート結果	17
表 1-2	日本手話の手形の分類（大宮手話フォント（試作版）棚田（2011））	35
表 2-1	手話辞典におけるカタカナ語数	50
表 2-2	3つの辞書で同じ手型が示されたカタカナ手話語彙のリスト	52
表 2-3	カタカナ語（具象物：家電、乗り物、食料・飲料）の手話語彙リスト	53
表 2-4	カタカナ語（非具象物）の手話語彙リスト	54
表 2-5	柳父（1982）の翻訳語の手話語彙リスト	55
表 2-6	音声語と手話の話し方および手話通訳の対照表 高田（2011b）P25 より	58
表 4-1	（ユネスコ評価基準）世代間の言語の伝達	81
表 4-2	（ユネスコ評価基準）話者総数の中に占めるその言語の話者の割合	82
表 4-3	（ユネスコ評価基準）言語の使用領域と機能	82
表 4-4	（ユネスコ評価基準）新しい領域やメディアに対する反応	83
表 4-5	（ユネスコ評価基準）言語教育における教材およびリテラシー	83
表 4-6	（ユネスコ評価基準）政府、各種機関の公的なステータスおよび使用に関する言語態度および政策	84
表 4-7	（ユネスコ評価基準）言語コミュニティのメンバーの態度	85
表 4-8	（ユネスコ評価基準）文書化の質と量	85

図一覧

図 1-1	<一生懸命勉強する>	16
	<いいかげんに勉強する>	16
図 1-3	<木>を表す各国手話の比較	18
図 1-4	日本手話<犬>	18
図 1-5	ASL /DOG/	18
図 3-1	ことばの技能の 4 領域とバイリンガル 中島 (1998,2001:10)	61
図 3-2	日本語モノリンガルの場合と、日本手話と日本語のバイリンガルの場合	62
図 3-3	ろう者の音声日本語とのバイリンガリズムのイメージ図	63
図 3-4	手話の連続体 (Baker and Cokely, 1980)	66
図 3-5	手話の連続体の変化	67
図 3-6	聴覚障害者の「複言語状態」のイメージ図 (古石作成)	67
図 3-7	聴覚障害者の使用言語の序列イメージ図 (古石作成)	68
図 3-8	日本手話と日本語の人数を反映したスペクトラム	68
図 3-9	日本手話と日本語の人数を反映しないスペクトラム	68
図 3-10	日本手話と日本語の上下関係を反映させたスペクトラム	69
図 3-11	日本語・日本手話・手指日本語の序列イメージ図	79
図 3-12	日本語・日本手話・手指日本語の入れ子型のダイグロシア	79
図 3-13	日本語・日本手話・手指日本語の入れ子型のダイグロシア (上下関係を反映した イメージ図)	79
図 4-1	<驚く>	105
図 4-2	<跳びあがる>	105